

**○11番（上野淑子君）〔登壇〕**

おはようございます。議長より登壇の許可を得ましたので、上野淑子、一般質問をさせていただきます。

本当にこのところ慌ただしい国会の動きとか、それから、本当に心痛む口蹄疫の発生と、本当に私たちは日々不安な毎日を過ごしております。一日も早い口蹄疫の終息と宮崎の方々の御健康と立ち直りを願いたいと思っております。

私、合併して2期目になります。1期目4年、樋渡市長とともに歩み、いろんなことを学び、いろんなことを経験してまいりました。そして2期目、新しい1年目に当たり、私は何をすべきなのかと考えてまいりました。本当に不安な毎日、日々変わる問題の多いこの社会に、地球温暖化をとどめるために、みんなが健康で過ごすために一体何ができるものなのか。我が武雄市もせんだって松尾議員の質問にありましたように、出生率が1.2人と人口減少の方向を指しております。そしてまた、どこでも一緒でしょうけれども、経済的にも本当に裕福ではない年を迎えております。こんな中、私たちはただ手をこまねいて、どうすればいいんだろうか、ああ不安だな、大変だなというばかりではいけないんじゃないかなと思っております。私たちができることは何なのか、本当に足元を見詰めながら、この大変なときではあるけれども、元気な人もたくさんいます。みんなで力を合わせて、地域住民の皆さんとともに、本当にできる目標を掲げながら、私はこの4年間、いろんな活動をやりたいと思っております。

今回は今まで4年の間に質問しておりましたいろんなことについての進捗状況と今後の取り組みについてをお尋ねし、そして、私は絶対これは取り組んでいかなければならないと思うごみ問題について質問をしていきたいと思っております。

まず初めに、子育て支援センターについてです。

子育て支援センターにつきましては、たくさんの幼児を持つ保護者の方からはよかった、うれしい、本当にできてよかった、ありがとうという声がたくさん寄せられております。すばらしい活動をされていることをうれしく思います。

その質問のときに私は、18歳までそこにも行けない、どこにも行けない子どもたちの対策はどうすればいいのかなということをお尋ねしていたと思います。市長からもお答えがありました。その後どのようにになっているものなのか、どのような取り組みがなされ、どのような問題が起こっているのかをお聞きしたいと思っております。よろしくお願ひします。

**○議長（牟田勝浩君）**

馬渡こども部長

**○馬渡こども部長〔登壇〕**

おはようございます。ただいま支援センターの件で御質問を受けておりますので、私のほうからまず子育て総合支援センターの業務内容及び現在の利用状況等について、若干時間を

いただきながら説明させていただきます。

子育て総合支援センターは、平成19年5月に子育て支援の拠点として、北方町の保健センターの中に開設をいたしました。その主な業務内容につきましてパネルを使って説明させていただきます。

子育て総合支援センターでは、まずいろんな子育てについて悩んでいらっしゃる保護者の方々、それから、育児やしつけのことで悩んでいらっしゃる方、そういう方たちがいつでも来れる場ということで、ふれあいルームの開放をいたしております。ここはセンターの開館時間内であれば、いつでも好きな時間に御利用になれるということで、お気軽においでいただきたいと思っております。

それから、交流事業といたしまして、各種広場の開催をいたしております。ゼロ歳児を対象といたしました「赤ちゃんひろば」、こちらは北方の支援センター及び武雄の文化会館、山内町の保健センター等で開催をしております。それから、就学前のお子さんを対象に各広場とふれあいランド、そういうものを実施しておりますけれども、市役所の1階では、キッズステーションにおいて「あいあい」、山内町の保健センターにおいては「あっぷっぷ」、北方の支援センターにおいて「ゆうゆうゆうひろば」を開催し、また、各町の公民館におきましては各町のそれぞれの公民館で広場を開催しておりますけれども、公民館によりましては老人会や婦人会の方々の御参加があったり、広場じゃないときに随時お母さん方が集まられて広場等を開催していただいているところでございます。

こちらの写真は、（写真を示す）ふれあいルームの開放と、それから広場等の開催をしたときの写真でございます。こういうことでたくさんの方に来ていただいているところでございます。

それから、子育て情報の提供ということで、毎月発行しております「くすくす“おひさま”通信」、これは保育所や幼稚園、そちらのほうにお配りして、公民館までお配りしているところでございます。

「子どものための情報たまてばこ“ゆうぼっぼ”」と言いますが、これは皆さんも班別回覧等をしておりますので、ごらんになられたことはあるかと思いますが、こういうゆうぼっぼの発行、これは学校のほうへもお配りしております。

武雄市のホームページにおきまして、子育て応援ページがございますが、その中に「おひさまブログ」というのがありまして、これは広場を開催している状況や、センターでの状況、こういうものをほぼ毎日更新をしておりますので、ぜひごらんになっていただきたいと思っております。

それから、講座等の開催でございますが、社会教育指導員の指導のもと育児教室や子育て、親育ち講座を開催したり、その他リフレッシュ講座、子育てサポーター養成講座等の講座も開催しております。

また、毎年大体2月ぐらいですけれども、文化会館の大ホールにおきまして、子育て支援フェスタ「みんなともだち」を開催し、たくさんの方に来ていただいているところでございます。

そのほかといたしまして、食育課と協力をいたしまして、子育て応援クッキングというのを行っております。（写真を示す）こちらがそのときの写真でございます。こちらがクッキング教室のときの模様でございますが、食育課と共同事業をしております、子育て中の親子の方を対象に料理の実習や試食をしてもらいながら、親同士の友達づくりやリフレッシュも兼ねていて、毎回盛況でございます。

こういったさまざまな事業を開催しております、たくさんの方に御利用をいただいております。利用状況といたしましては、開設が平成19年度でございますが、このようなさまざまな事業は子育てサポーターの方や母子保健推進員の方々の御協力をいただき実施しているところでございますが、開設初年度が1万1,000人、20年度が2万人、21年度が2万3,000人、今年度はこれまで約5,000人弱の方の御利用をいただいておりますが、そのほとんどは就学前のお子さんや小学校低学年のお子さん、そして、その保護者の方々が利用をされている状況でございます。

それから、先ほどの御質問でございますゼロ歳から18歳までのお子さんを対象とするセンターということでございますが、こちらのほうは現在、いろんな形で検討しておりますが、今の支援センターの中でそれが対応可能なかどうか、それから、市長の「みんなの政策集」にもあります福祉センターの中での対応が可能なかどうか、そういうことも含めまして検討させていただきたいと思っております。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁を補足いたします。

まず、できることをやるという観点から、今の北方町に置かれている子育て総合支援センターに、先ほどありました小学生、中学生の子育て相談に対応できる相談員を配置しようと思っております。これについては、国、県の補助金を今見つけるべく努力をいたしておりますので、今までの就学前のお子さんたちに加え、さらに議員から御指摘があった年齢層の拡充に向けて動き出したいと思っております。そして、さらにこれはなかならず川良地区の皆様方としっかり協議をいたしますけれども、私たちの今の構想では、今の市民病院の跡地に武雄市総合福祉センターを、お許しをいただければ開設をしたいと思っております。これは契約関係とかもろもろありますけれども、私たちの思いはそこにありますので、まず今の段階では北方町の子育て総合支援センターでできることをやると。そこにちょっとダブることになりますけれども、その一角にぜひ児童センターを入れたいと思っております。それは場所

の問題、交通の問題等々がありますので、そういった中でホップ・ステップ・ジャンプといきたい。ただ、今回市民病院の訴訟で不要不急の1億2,000万円の合計なろうかと思うんですけど、これが非常にあれですよ、いろんな事業をやるに当たっても非常にネックになりかねませんので、それについてはちょっと心を痛めているところであります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に部長のほうから説明ありましたように、たくさんの事業を子どもたちのためにされていらっしゃることを深く感謝をいたしたいと思います。

こんなにいろいろしていただいておりますのに、なおかついろんな市内においても子どもたちの問題とか、困ったという親の悩みを聞かれるというのはどうしたものかなと私も常々思っておりますが、今市長の答弁にありましたように、一日も早くそういうセンターができて、本当に悩める親さん、ふらふらする子どもたち、いろんな不安を持つ親さん、子どもが集まってできるように一日も早い施策をお願いしたいと思っております。病院のことに関してはいろいろあると思いますが、一日も早く解決できるように、そして進めるようにお願いしたいと思います。

では、次に移ります。

次、公立幼稚園についてでございます。

今までに募集のエリアを広げていただいたり、障がいを持つ子どもに対しての補助員をつけていただいたりと、いろいろな努力をしていただきました。本当にありがたいと思っております。

先日は、障がいを持つAちゃんのお母さんより、入園して何カ月か、本当に親子ともどもうれしい毎日を過ごしておりますと。子どもも嬉々として毎日を過ごしています。それを見た私も本当にうれしくなります。ありがとうございますという声が届いております。本当にうれしゅうございました。

再度質問をいたしましたのは、私は常に幼稚園の存続をということで意見を申ししておりましたが、今回、幼稚園の保護者の方たちから、いろんな声が届いております。存続を求める声でございます。ぜひそれを聞いていただき、今後どのようになっているかをお聞きしたいと思っております。まず、その声について読み上げさせていただきます。

何ととっても保育料が安くて大助かりです。働きに行って高い料金を払うより、大変だが今の子育てが一番いい。

エリアを広げていただいたおかげで、子どもたちを送り迎えするときに子どもとスキンシップができてとてもよかった。これは武雄から今度入られた方だそうです。

車の中でしっかりと子どもと対話ができる。送迎バスがないのも問題かな、あるのがいいのかなという意見。

広い園舎、広い園庭で自然の中で伸び伸びと遊ぶ子どもがとてうれしい、親もうれしい。

先生方の行き届いた目の中ではぐくまれて子どもたちも幸せである。

給食が小学校と同じで、入学してもすんなりと食べられるところ、抵抗がないところがいい。

最後に、子どもを迎える間、ほかの親さんとのつながりが深まり、一人で悩まないで子育てについてもいろんな相談ができて心強い、このような存続を求める声が届いております。

今後、市としてどのような方向に進まれていくものかをお聞きしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

浦郷教育部長

**○浦郷教育部長〔登壇〕**

おはようございます。お答えいたします。

今の現状、園児数等につきましては、御存じのように、平成22年度の園児22名ですけれども、このうちに北方町以外から6名の園児が通園をされているところであります。それから、今後の見込みといたしますか、進め方でありませけれども、御存じのようにこの北方幼稚園につきましては、園児数の減少、あるいは費用対効果の減少などで極めて厳しい経営状態にあるということにつきまして、20年度から行革プランに基づく作業部会を設置をして、いろいろ検討してきておるところであります。

ただ、今申し上げました21年度からのエリアの拡大とか、そういうものも情勢の変化等に対応してきているわけでありませし、なお、国のほうの児童、幼児、そこら辺の政策、これまたなかなかはっきりわからないという部分があります。将来見込みを含めてです。こういう状況の中では議会の、今までのいろんな意見、あるいは地域の先ほどのお話、皆さんの思いとか、そういうもの、それから先ほど申し上げた経営上の問題を踏まえて、これまで以上に検討をしていきたいし、なおかつ教育部の中に設置をしています作業部会、この中で検討をし、そして、関係者の皆さんたちと十分な議論をさせていただきたいというふうに考えているところであります。

**○議長（牟田勝浩君）**

11番上野議員

**○11番（上野淑子君）〔登壇〕**

本当に大変なことであることは重々承知をいたしております。その上でかつまた存続を言い続けるということは本当に保護者の方々の気持ち、それから子どもたちの状況を見ながら本当にできるならば存続をとという気持ちは重々でありますけれども、財政的にもいろんな負担があつて、はっきりとは言えないと思いますが、私はまた再度ここにきょう質問いたしま

したのは、今までやっていた保護者の方々が、通いなれたところにやりたいがどうか、それからまた、これから幼稚園にやらなくてはならない親さんからの声ですけれども、早くどちらかに決めてほしい。――どっちかて存続を希望されているんですけれども。そうしないと、幼稚園にやれなかったら他園のことを考えて調べなくてはならない。いろんな問題がそこに生じてくるので、どっちかはっきり返答をしていただけないでしょうかという声が届いているのです。それで再度質問をしたところであります。

ですから、もう10月、11月ですかね、募集時期に入ると思いますが、それまでにはどちらかの方向を示していただかないと、親さん方も困っていらっしゃる。きょうはまた園児の親さんたちも見えていらっしゃいますが、そういうことでどのように、いつごろまでにはっきりした返事というものはいただけるものなのか、親の不安も解消していかなくてはならないと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょうど4年前に合併をして、市長に就任させていただいて、そのときに最初に取り組んだのが行革プランなんですね。行革プランの中には議員御承知のとおり、平成23年4月に民営化ということが明示をされています。その中で、上野議員を初めとして地元の皆さん、保護者の皆さん、さまざまな御意見が今まで寄せられてきました。この4年間でも寄せられてきました。じゃあ、それで機を熟したかということ、これは私の個人的な見解ですけれども、なかなか我々も非常に悩んでいます。一刀両断に23年4月でいいのかということで今思っておりますので、今私が言えることは、この23年4月にはこだわりません。まずこだわらない。地元の皆さんとなかなく保護者の皆さんとしっかり協議をする必要があるだろうと思っております。先ほどこれは教育委員会の所管でありますので、私のほうから、いや、こうすべきだ、ああすべきだと本来言う立場じゃないんですね。これは御存じだと思いますけれども、教育委員会を中心として先ほどあったように、検討委員会がありますので、その中でしっかり議論をするということ、それに加えて私たちは市長部局においては、それをしっかりフォローするというので地元の皆さんたちにしっかり話を聞いていきたいというふうに思っております。

今、いつまでというのを民主党さんのマニフェストみたいに言うと、大変なことになりますしね。それはやっぱりできることはできると言いますし、我々はできないことはできないと言いますので、今やっぱりそこで一刀両断にいつまでというのはなかなかちょっと言える立場ではありませんけど、もう少し時間を。

これについては、どっちにするにしても、今認定こども園という話等々も出ているんですね。あと他の議員からもありましたように、他の用途というのもありますので、そういうの

を総合勘案した上で、少なくとも2年か3年前にはきちんと言います、それは。計画もありますので。そういう意味で、例えば、旭学園の武雄校舎がすぐばたっととまるようなことはいたしませんので、それはぜひ御安心をしてください。時間を持って我々が決める方針についてはしっかり説明をして、しっかり時間を置いてちゃんと言おうというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

それでは、本当にいろんな面から苦しい選択というのは重々わかりますけれども、先ほど申しましたように、親さんにとってはどちらに決めたらいいのかというその選択もありますので、市長の答弁としては本当にありがたいことです。でも、4月からやらなくてはならない親さんにとっては、どこかで、どちらの方向で、23年にはしない、する、考える、その線だけでもしていただかないと、親さんたちはどう決めていいのかわからないと思うので、そのことをお聞きしたい。いつぐらいまでに、残す残さんのはっきりした返事じゃなくて、23年度から児童募集するしない、それによって親さんはどこにやるかを検討するとおっしゃっている。それを聞きたいと思います。教育長どんなでしょう。募集時期までに。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今、市長の答弁にありましたように、募集を仮に停止するとした場合でも何年か前には事前にお知らせするという形になると思います。ですから、23年4月を私ども一応めどとして考えたときにも、そうした場合に今就園している子どもたちが卒業する、そして、その2年後入ってくるとか、そういうことまで見越して話を進めますので。ですから、仮に今の状態を変えとしても、何年か前にはお知らせをするということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

23年4月は募集をいたします。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。了解いたしました。本当に数で決められる子どもたちもかわいそうですねけれども、23年募集をするということを知られて、親さんたちも安心して募集に応募されると

思います。

では、次に移ります。

次は、防犯灯の設置についてです。

せんだって武雄市の防犯協会の総会がありました。その折に、ある委員さんの中から防犯灯の設置はどがんなとつとつや、幾ら言うてもつかん、これは議会で取り上げてくれんばいかんばいという強い意見が出されました。

防犯灯については、私も再三質問をしてみました。他の議員からも質問が出ていたと思います。防犯灯の設置については、防犯灯予防設置補助を活用され、各地区で必要とされるところに設置をされていると思いますが、こういう声が出るということ。それから、いまだついていないところがあるという声を多々聞きますが、どのような状況になっているものなのか、お聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

防犯灯の設置につきましては、各町の防犯協会から出たものを市の全体の防犯協会が取りまとめて配分するという形で進めております。

1 基当たり新設で4万7,500円、それから既設で1万6,800円の予算がございます。

全体の予算が135万円ということですので、なかなか年度でできるものには限りがあるということでございます。

22年度の要望につきましては、130カ所要望がっておりますが、なかなか十分におこたえすることができないという状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に130カ所もの要望があるということ、本当大変だなと思いますけれども、やっぱり事件が起きてからではということを再三申しておりますけれども、一日も早い設置を願うところでございますが、130カ所の中にやっぱり町境というものもあるんでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

現在伺っています130カ所の要望の中に、町境としてございますのが3カ所ございます。そこにつきましては、前の議会からいろんな課題がっておりますが、なかなか苦慮しておりますところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員。

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

町境のことについての質問だったとこの前も思うんです。私もせんだって質問いたしましたけれども、町境というのはなかなか折り合いがつかなくてということをお聞きしております。でも、本当に町境といえども武雄市内でありますし、私たちの地域でもあります。ですから、子どもたちのこと、それから住民の人たちのことを思えば何とかできるんじゃないかな。だから、行政のほうでどうぞ力をかしてくださいという質問を前回もしていましたが、なかなか折り合いがつかずに設置がなされていないように思います。

本当に今こんな危険な世の中でございますので、危険防止のためにも子どもたちの通学、通園、それから、大人たちの一般道路にも本当にいち早くつけなくちゃいけないのに、人の命のことを考えたら、町境であれ、なかなか折り合いがつかないというのはどうしたものかなと私も懸念をいたしておりますが、そういうところには何とか方法はないんですか、特別法とかですよ。ないものかどうかお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

例えば、まちづくり交付金なんですね。そのために私たちは、これは各町のまちづくり協議会に交付をさせていただいていますし、それともう1つが、やはりこういったときこそ町境の各区ですよね、しっかり議論をしてほしい。それがやはり住民の福祉の維持向上につながるというふうに思っておりますので、そこでなかなか今までの歴史的な話とかというのがあろうかと思っておりますので、それは以前私が答弁をいたしましたとおり、その際に行政が入って話をすることになるかと思っております。

ただ、議員にぜひ御理解を賜りたいのは、これは町境であれ、そうでないであれ、たくさんの方の要望が公式、非公式に私のところにも寄せられているんですね。その地区の皆様方からとってみれば、自分のところが一番やはり大事だと、難しいと、あんなきやいけないということを言われますので、その防犯協会でも優先順位をつけるというのは非常に難しいんですね。予算の兼ね合いもありますので。そういった中で、まず優先的にできるということは繰り返しになりますけれども、まずまちづくり交付金、そして、これが切れた後に、これも昨日答弁をいたしましたけれども、新まちづくり交付金等々を御利用をいただければありがたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にそうだと思います。たかだか月々250円ぐらいの電気代だと思います。みんなで話

し合えば済むことじゃないかなと思いますけれども、どうぞ行政が指導しながら優先順位をつけて一日も早い設置を望みたいと思います。

そして、ぬくもりのある武雄市、安心・安全な武雄市にしていきたいと思っております。

では、最後に、ごみ減量の問題について質問いたします。

このごみ減量問題に取り組むのは、私たちは北方町ですけれども、ごみ減量については以前からもう七、八年になります。生ごみの対策について取り組んでおります。伊藤理事もいらっしゃいますけれども、EM活性液を使ったり、ぼかしを使ったりしながら、生ごみ、ごみの減量についてはいろんな取り組みをしてきておりますが、せんだって、おじさんですけども、近所じゃないんですけれども、私のところに来て、これはあんたがする仕事やなかとやと言ってこられたのがあったんです。それは自分の奥さんが病気になられて、自分は台所をちょこっと手伝うようになった。そしたら、生ごみを出さんといかん、ごみを。そいぎ、ちょっとおふたかもんの、臭かもんので、これどがんすつと、こがんとみんなで取り組まんばろうもんで、そいはあんたの仕事たいて言いに来られたんです。

私そのときは何とも思わなくて、私は、そいけんEMとかぼかしば使いながらせんばいかんて、北方しようたいねて言ったんですけど、おれは知らんやつたて。やっぱりこれを真剣に取り組んでいかんぎ汚かばいていうことを言われたんです。それで私も本当にまたうちに帰ってごみ減量については考えていかんばいかなんということをいろいろ調べさせていただいたり聞いたりしています。

そしてもう1つびっくりしたことは、ちょっと資料出されない——出どころはしっかりしているのですけれども、私たちが出す残飯がですね、年間全国で11.1兆円、そして、農業水産業の総生産量、それが12.4兆円、余り残飯と変わらんです。これを見せてもらったとき、私びっくりしたんです。何こいて。我々一人一人が何とかできないものだろうかということ、ごみ減量についてきょうは真剣に皆さんに訴えながら考えていきたいと思っております。

我が武雄市のごみの現状というものはどういふものなのかは一応お聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

ただいま御指摘の武雄市におけるごみの排出状況でございますけれども、クリーンセンターにおいて、廃棄物の破碎、焼却等最終処分をとり行っておりますけれども、昨年の実績を見ますと、1万1,089トンと、ここ四、五年では横ばい傾向であるという数字が出ております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

今私が申しましたごみはもう全部のごみですのですね。じゃあ、部長にちょっとお尋ねですけども、今いろんな政策をなされていると思いますが、今後どのように変わっていくものか、どんな推測をされていらっしゃるでしょうか、ごみの量についてですけども。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

今後の見通し予測についてのお尋ねでございますけれども、市民のライフスタイルの変化、商業施設や事務所等の増加により、人口の減少に反しまして一般廃棄物の排出量は緩やかではありますけれども、増加になるかなと予測はしております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁に補足をいたします。

確かに今の状況のライフスタイルの変化が続くようでしたら、これは武雄市のみならず、やっぱり増加傾向にあるんですね。例えば、テレビですね。あれも昔のブラウン管だったら、さほど焼却に手間がかからなかったんですけども、今の例えば、プラズマであったり液晶というのは、非常にこれ処理に手間がかかるということ。それが一家で3台も4台もあるというのが当たり前になっています。そういった中で、これですね、ぜひ個人の問題なんです。個人が、自分たちが出すごみの量が、例えば、私が住んでいる西浦地区は火曜日と木曜日なんですね。火曜日と木曜日に、その木曜日捨てるんだったら火曜日よりも少し減ったねというふうに、自分のライフスタイルの中で、一つ前のごみ出しよりも減っているということをしなくて——これは家計簿と一緒にだと思えます。しないと、なかなか総和として全部のプラスして減ることはないと思っていますので、やはりごみを出さないということが大事だと思うんですよ。

だから、昔、私たちが幼かったときに、例えば、食べ物でもスイカの皮のちょっと上まで食べよったですね。私はそれが当たり前と思えば当たり前じゃなかったごたっですもんね。ですので、とにかく食べるということからしても、一番廃棄の場合に身近なのは、やっぱり食べるものを排出するということですので、極力ごみを出さないような料理だとか、それは上野議員のほうが私の100倍ぐらい御存じだと思いますので、そういう個人のライフスタイルですよ。その中で、きのうよりもきょう、きょうよりもあすというふうに減らしていこうというのが社会的なマインドとしてなる。それともう1つは電気代、あるいはガス代ですね。これも前年同月よりもやっぱり安く済んだということ。だから、数字があるほう

が多分、私もダイエットをしばらくしていましたが、数字があったほうが意欲がわくんですよね。ですので、そういうふうにわかりやすく、見やすく、そして、だんだん減らしていくというのが実感となれば、総和としてこの先、部長と私から最初に答弁しましたように、穏やかな増加傾向というのが減っていくんだろうというように思っています。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

市長が答えられた全くそのとおりですけれども、本当にごみというのは一人一人の考え方で減る、ふえるということになっておりますが、もう1つ部長のほうにお尋ねですけれども、こういうごみはふえている、横ばいである、緩やかなりと上っていく。それに対して市としてはどういうふうな施策をとっておられることがあると思うんですけれども、それをちょっと紹介していただければと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

先ほどの一般廃棄物等の減量のためには3R推進による政策を実施しながら循環型社会の形成に努めるようにしております。その3R推進と申しますのは、ごみの発生抑制、再利用、再資源化、そういう3R推進による施策に努めたいと思っております。

また、著しい増加傾向が見られます事業系一般廃棄物の削減といたしましては、事業所用ごみ分別ハンドブックの作成配付、そして、特別収集制度の見直し等を行いまして、計画策定などを行いまして、今後検討をしていきたいと思っております。

それと一番気になる家庭系の一般廃棄物の削減ですけれども、啓発事業の強化、これはリサイクルバスツアーの実施、そして、うちのほうで出前講座等を強化しておりますけれども、昨年度は24件、今年度6月実績ですけれども、10件の出前講座等を行っております。

それと、昨年から取り組んでおりますごみ減量特区におけます削減の方法の調査研究、そこら辺の啓発に努めたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

いろいろな施策はされていると思いますが、もう1つお尋ねです。

ごみ減量特区についてどのような指導をなさって取り組まれているのか、どのような成果が上がっているものなのか。それから、特区を4地区ですかね、3地区、特区されたのは。

〔まちづくり部長「3地区」〕

3地区ですかね。いろんな課題が残っていると思います。どのような課題が上がってきているものなのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

昨年度の実績といたしまして3地区、市内の附防地区、今山地区、東宮裾地区で取り組んでおりますけれども、昨年の実績報告書を出しておられますけれども、それぞれ今後の問題点等、家族全体の取り組み、地域全体の取り組み、そのごみ減量に対する関心度、そこら辺等が将来的にも持続するようにとか、いろいろ各地区からの問題点、課題等を出されておるようでございます。

最終的にある地区の反省点ですけれども、今期だけの取り組みに終わらず、将来的にも持続するような継続的な意識づけですか、そういうようなのを行おうとか、そして、会員相互のリサイクル資源の分別回収等のそこら辺の徹底等の課題とか問題点等が出ております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ごみ減量特区というのは本当に素晴らしい取り組みだと思っております。その特区の取り組みの予算とか、そういうもの、それから、どういうあれで指導されているものなのか、今課題がありましたけれども、その課題を今後市民にどのように広げていかれるのか。多分特区というのはごみ減量のモデル地区だと思うのです。それをどういうふうに広げていく計画をなされていくものなのか、計画がありましたらお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ごみ減量特区については、大きく新聞で取り上げられました。ちょっと答弁重なるかもしれませんが、若木町の附防地区、山内町の今山地区、そして、北方町の東宮裾地区ということで、実際この地区の皆様方の報告会をぜひ開こうと、きちんとオープンの形で開こうと思っております、そこは出入り自由にして、そのときに現場の方々がこういうことがよかったと、こういう御苦労があったと、あるいは行政のかかわり方でここが手厚かった、薄かったといったことを含めて、現場の皆さんたちの生の声を聞く機会を設けようと思えます。これの時期につきましては、21年の実績で3地区ということで今進めていますので、秋ごろまでにはその報告会ですよね、それと意見交換会を行います。秋までには行おうと。

今後なんですけれども、特区については先ほど申し上げた実績を踏まえて拡充するか縮小するかというのを決めていきたいと思っておりますので、ぜひ議員にもその説明会の折には、報告

会の折にはお運びいただければありがたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

予算面はわかりますか、特区に対する予算、補助。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

予算面の話ですけれども、1世帯当たり4,000円、限度額の20万円を実施しております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

1世帯当たり4,000円というものについては、いろんな意味があつての4,000円だと思っておりますが、それはまた後で聞くことにいたしまして、本当にこのごみ減量というのは市長おっしゃったように、一人一人広げていかなければいけないということがあるのです。特区は本当に私すばらしいことだと思っております。この特区を生かしながら、市全体にごみ減量を広げていかななくてはならないと思っておりますが、私はすみません、今ずっと初めから申しておりますのは、ごみの中でも可燃ごみの中で事業系ごみと家庭ごみの中に分かれておりますが、家庭ごみが8、事業ごみが2と分析をされていると思っておりますが、その家庭ごみについて今から話をしていきたいと思っております。

家庭ごみの中身については、どうぞ皆さん資料があると思っておりますが、ごらんになってください。

私はごみ問題についてなぜこんなに取り組まなくてはならないかといいますと、やっぱり地球温暖化の加速について、ごみ処理というのは大きな問題を抱えているのです。それを少しでも減少するために、やっぱり家庭ごみの削減をしていかななくてはならないということで取り組んでおります。

家庭ごみの中身をごらんください。家庭ごみの中身は生ごみが39%、紙類が29%、プラスチック13%、その他19%になっております。武雄市においては紙類は分別され、プラスチックも分別がされております。これをきちっとすればまた減っていくんじゃないか、徹底すればいいと思っております。私がきょう中心に取り上げていきたいのは生ごみの減量でございます。生ごみの中身について見てください。食べ残し28%、調理くず55%、手つかずの食品、これはちょっと見にくかですけれども、11%、その他が6%となっております。これを見たらもう皆さん、先ほど市長もおっしゃいましたようにごみを出さないようにするときのというこ

とですね。いろんなことがこの中から出てくるんじゃないかと思います。それはそれぞれの家庭の中で。また、私がここで一般質問するからには行政にも手伝っていただきたいことは、ごみ減量特区とか指導に回られるときに、このところも指導をしてほしいということ。また、この生ごみについて家庭ごみについては、私たちが女性が中心になってかかわっていることですので、いろんな団体、女性ですね、団体とか地区で指導をしていただきたいと思ってきょう話しております。

生ごみの中身の食べ残しの28%、それをまた右の表を見てください。水分が90%です。したらもうおわかりだと思います。減らすためには水分を減らすということ。これが大きな課題となっております。

ごみをみんな重量ではかって決められますね。ですから、水分がなくなれば軽くなる。私は、ああ、このところだな。私たちは今まで北方でごみ減量についていろいろ先ほど申しとおりましたように取り組んでまいりました。それは生ごみを堆肥化する運動を一生懸命してきました。ぼかしをつくったり、EM活性液をつくったりしながら堆肥化してごみを出さない、畑に戻しましょうという運動をしっかりとしてきたんです。多分北方はそれでごみも減ったんじゃないかなと自負しておりますけれども、でも、それでもなかなか減らないのはどうしてかといったときに、やっぱり堆肥化する前に、このところが私たちの取り組みに足らなかったんだなと思いました。水分を減らすということ。ここが大きな課題でした。このまま畑に堆肥化をして出す家庭はたくさん——まあ、武雄市は半分以上あるかもわかりませんが、どうしても出されない家庭もいっぱいあります。マンションとかアパートとかですね。じゃあ、その方たちは今まで、うちはもう堆肥化したものもまた出しよんさったかもわかりませんが、でも、そこに堆肥化をする前に水分をしっかりと切っておけば、生ごみとして出したときにも軽くなる。そこでまたごみの量がぐっと減ってくる。そしてまた、水分をしっかりと切ったごみでぼかしを使って堆肥化をしたときには、ぼかしもすごく効いて堆肥もすごくつくりやすくなる、失敗がない。そこに大きな分かれ目。

私たちが今までやってきたことは、下のほうの堆肥化のところばかり一生懸命きて、上のことをしていなかった。今度、合併して武雄市になった折に、やっぱり堆肥を要らないという家庭が多い。じゃあ、どこなのかというと、やっぱりここなんだなということですね。私はこの水分を減らす、これをやっぱり大きな課題として取り組んでいかなければならないと思ったんです。

私もあちこち聞いて回りましたが、佐賀市がですね、ことし、今年度ですね、大きく生ごみの減量に取り組んでおられます。そして、水分を切る。さっき市長がおっしゃったように、要らない、買わない、ごみ出さないようにするというので、大きく、もう市の施策として取り上げておられます。そこでどうしてですかと簡単にちょっと電話で聞いたときに、年間にこの水分を減らす、減らさないでごみの量を佐賀市でざっと計算したときに、年間に3,000

万円、10年たったら3億円、それを水を切っただけでそれだけ減るというんやったらやらんばいかんやろうて。だから、佐賀市は徹底してそれをやりますということを言われたんです。そんならうちでもしなくては。私たちも堆肥化するために水切りはしております。でも、徹底してしていなかったんです。水切りをして、どれだけ生ごみの量は減るものなのかなというのを私は実験をしておりますが、実験をされたところに聞きに行ってみました。そしたら、水分を切ったら20%減るそうです。その20%減って、その計算がいろいろあって、年間3,000万円浮く、10年で3億円浮くよ。そしたら、その3,000万円というのは何かに使えないか、子育てとかですね、いろんなものに使えないか。何も市のお金がいっぱい要るわけではない。そこを行政とともに、官民一体となって取り組んでいかんごみは減らないと聞いて、ああと私もびっくりしたんです。

武雄市のごみの総お金が6億4,000万円かかっているそうです。私も本当、10年たったら60億円、すごいなと思ったんです。そしてまた、これだけのお金をかけた上に地球温暖化にも加勢をしているということである。絶対これは私たちが取り組むべき、一人一人が自覚して取り組むべきだと痛切に思ったんです。それで、今年度もごみ減量特区を計画していらっしゃると聞いて、ぜひその特区でも指導をする項目をきちっと上げていただいて、これこれこれについてモデル地区として、そして、特区と決められたからにはやっぱりどれくらいの成果があったというのがはっきりしないとまた次に進んでいけないと思うのです。

だから、そのような特区の取り組みをぜひしていただきたいと思うし、それから、これは参考ですけども、佐賀市はそれじゃどういうふうにして取り組んでいるんですかということをお聞きしたんですけども、市報にも大々的に載せてあります。そして、本当に簡単に水切りをする、そして、出す人はそれを出す、堆肥化する人はここから堆肥化をする、その指導ですね、緊急雇用のお金を使って佐賀のNPOに委託されてあるんですよ。そのNPOの中で、その方たちが指導にずうっと行かれるんです。あらゆるところに指導に行き水切りの指導、ぼかしの指導、そして堆肥の指導、これを行政にお願いするのはとんでもない無理なことだと私も思っております。ですから、そこに指導、アドバイザーといいますかね、何でんよかですけど、そんな人たちがやっぱりいなくては、聞いただけではなかなかできないと思うんです。それを私は行政にお願いしたいと思っているんです。そういう考え方についてはどんなですか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

非常に勉強になりました。それはやっぱり行政だけではちょっと無理ですので、先ほどお話がありましたように、いろんな市民パワーですよ、ぜひ一緒になって水切りアドバイザー、エコアドバイザーですかね、水切りアドバイザーってなかなか涼しい感じがしますね。

ですので、ぜひそのときに、きょうたくさんの方がお見えになっておりますけれども、例えば、これは押しつけていう感じじゃないんですけど、やはり婦人会の皆さんたちが一番生活に根差されていますので、やっぱりですね、緊急雇用でいきなり行くと、やっぱり受け手のほうも、うっときますけれども、皆様方から親しまれている婦人会の皆さんたちが——うんうんとうなずいておられて僕は非常にうれしく思っているんですけども、行っていただくと、やっぱり自分の身近な人が身近なことをおっしゃっている。しかも、さっきありましたように、いや、これで20%も減るとですよということをおっしゃっていただくと、非常にこれはなるのかなと思っておりますので、ぜひそのアドバイザーのシステムはつくりたいと思います。

その上で1つ紹介なんですけれども、やっぱり乾燥のときには水切りが第1、第2が本当なんです、手を入れて乾燥させるということで、例えば、平成21年度の実績なんですけれども、武雄市は電動生ごみ処理機等に半額の補助を出しているんですね。これは県内に比べると、非常に手厚い中身になっておまして、実績は平成21年、昨年なんですけど、電動生ごみ処理機で50件の補助を出しています。50基ですよ。それとコンポスト、田んぼとかにあるコンポストですね、これについては15件の半額の補助を出しています。EM型、上野議員熱心に取り組まれていますけど、78件の補助を出しているということで合計143、1年でこれが多いか少ないかはちょっと議論の余地はありますけれども、143のいわゆる手を入れて乾燥させるというものに出していると。ですので、これをもっと広報しようと思っています。ただ、これだけ広報してもあんまりインパクトがありませんので、水切りアドバイザーも含めてこういう流れで、チャートで流れてするようにしたい。これは広報に、市報にも出しますし、市役所が番組を、口蹄疫の特集を今、組まさせてもらっていますけれども、口蹄疫の問題が私も早く終わることを願っておりますけれども、それが終わった時点でこれもあわせて広報をしていきたい。みんなでごみを減らすということに官民挙げて取り組むという姿勢を明示をしていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にうれしく思います。みんなで取り組んでいきたいと思っております。

最後にですけども、水切りの実演を、簡単に、お金もかかりません。これは私ぜひきょう皆さんに見ていただきたいと思って持ってきておりますので。

（現物を示す）本当にこれも佐賀市のほうから習ってまいりました。これで全部回っているそうです。簡単なものなんです。これはおわかりですね、ペットボトルの上ですよ。三角のごみコーナーがありますが、これにこう置いておいて、これに生ごみを入れて、そして、おわかりだと思います。こうして絞るんです。そして、これで20%減る、大方ですよ。そし

て、ぎゅーっと引っ張る。そしたら自分の手も汚れない。そして、これを出す。ほんなこれだけで3,000万円浮くんだったら、私はこれはやらなくてはと思ったんです。これはみんなただでできるものばかりです。ぜひこれはですね、市報に載せられるときには写真がありますので、それを載せていただきたいと思います。

そして、本当に私たち主婦はですね、それから特に婦人会中心ですけれども、地道に本当にごみ減量に対しても活動をしてまいりました。そして、私たち本当に社会活動のキャリアウーマンだと思っております。ですから、今後もですね、ぜひこのことを取り組んで、しっかり、少しでも市政に役立つように、そして、地球温暖化防止のために活動をしていきたいと思えます。

これで一般質問を終わります。

**○議長（牟田勝浩君）**

以上で11番上野議員の質問を終了させていただきます。